

## **September 28, 1972**

### **Record of the Fourth Meeting between Prime Minister Tanaka and Premier Zhou Enlai**

#### **Citation:**

"Record of the Fourth Meeting between Prime Minister Tanaka and Premier Zhou Enlai", September 28, 1972, Wilson Center Digital Archive, 2001-42, Act on Access to Information Held by Administrative Organs. Also available at the Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan. Obtained by Yutaka Kanda and translated by Ryo C. Kato. <https://wilson-center-digital-archive.dvincitest.com/document/121229>

#### **Summary:**

Zhou Enlai met with Tanaka Kakuei, the Japanese Prime Minister and shared opinions regarding the diplomatic normalization. Zhou claimed that "it is unlikely for us to liberate Taiwan by force."

#### **Credits:**

This document was made possible with support from MacArthur Foundation

#### **Original Language:**

Japanese

#### **Contents:**

- Original Scan
- Transcript - Japanese
- Translation - English

極 秘
無 期 限
4 部の内 3 号

秘密指定解除  
情報公開室

田中総理・周恩来総理会談記録

(1972年9月25日～28日)

－日中国交正常化交渉記録－

アジア局中国課

二極秘二

秘密指定解除  
情報公開室

## 目 次

第一回会談	9月25日	1
第二回会談	9月26日	5
第三回会談	9月27日	13
第四回会談	9月28日	26

## 双方の出席者

日本側	田 中	総理大臣
	大 平	外務大臣
	二階堂	官房長官
	橋 本	中国課長
中国側	周恩来	総理大臣
	姬鵬飛	外交部長
	廖承志	外交部顧問
	韓念龍	外交部副部長

(注： 本会談記録は国交正常化当時の記録を改めて昭和  
63年9月タイプしたものである。)

＝極秘＝

秘密指定解除  
情報公開室

## 第四回首脳会談（９月２８日）

周総理： 今日では台湾問題を話し合いたい。

ところで明日はどうしますか？

（周総理から、調印式はじめ、２９日の日程及び３０日出発の細目につき話があり、詳細につき橋本中国課長から韓叙（儀典長）に連絡して決定しようとの話あり）

台湾問題につき、日本側から話を聞きたい。私は１９２４年に蔣介石と知りあった。国民党とは２回合作した。また２回戦った。私は５０才以上の国民党・政府の要人はよく知っている。今日は秘密会談であるから、何でも言ってほしい。

大平大臣： いよいよ明日から、日台間の外交関係は解消される。（以下大平大臣は別紙をそのままゆっくりと読みあげ、周総理以下中国側は極めて真剣に聞いた。）

二秘二

秘密指定解除  
情報公開室

(別紙)

## 日中国交正常化後の日台関係

1. 日中国交正常化の結果、現に台湾を支配している政府と我が国との外交関係は解消される。このことは当然のことではあるが明確にしておきたい。しかしながら、昨年、日台貿易が往復12億ドルを越えたこと、我が国から台湾へ約18万人、台湾から我が国へ約5万人の人々が往来したことなどにみられるとおり、日本政府としては、日台間に多方面にわたる交流が現に行われているという事実、また日本国民の間には台湾に対する同情があるという事実を無視することはできない。
2. 日本政府としては、今後とも「二つの中国」の立場はとらず、「台湾独立運動」を支援する考えは全くないことはもとより、台湾に対し何等の野心ももっていない。この点については、日本政府を信頼してほしい。しかしながら、日中国交正常化後といえども、我が国と台湾との関係においては、次の諸問題が当分の間残ることが予想される。
  - (1) 政府は在台湾邦人（現在在留邦人3,900及び多数の日本人旅行者）の生命・財産の保護に努力しなければならない。

二極秘二

秘密指定解除  
情報公開室

- (2) 我が国は自由民主体制をとっており、台湾と我が国との人の往来や貿易はじめ各種の民間交流については、政府としては、これが正常な日中関係をそこねない範囲内において行われるかぎり、これを抑圧できない。
- (3) 政府は民間レベルでの日台間の経済交流も(2)と同様容認せざるをえない。
- (4) 日台間の人々の往来や貿易が続く限り、航空機や船舶の往来も(2)(3)と同様、これを認めざるをえない。
3. 日中国交正常化後、台湾に在る我が方の大使館・総領事館はもちろん公的資格を失うが、前記の諸問題を処理するため、しばらくの間、その残務処理に必要な範囲内で継続せざるを得ない。またある一定期間の後、大使館・総領事館がすべて撤去された後に、何等かの形で民間レベルの事務所、コンタクト・ポイントを相互に設置する必要性が生ずると考える。このことについて中国側の御理解を得たい。
4. なお、政府としては、日中国交正常化が実現した後の日台関係については、国会や新聞記者などに対し、上記の趣旨で、説明せざるをえないので、あらかじめ御了承願いたい。

二極秘二

秘密指定解除  
情報公開室

周総理： 日本側では、台湾との間で「覚書事務所」のよ  
うなものを考えているのか？台湾が設置に承知するであ  
ろうか？日本側から、主導的に先に台湾に「事務所」を  
出した方が良いのではないか？

(橋本中国課長注： 周総理以下中国側は、大平大臣あ  
るいは田中総理が日台関係につき、何か難しいことを言  
い出すのではないかという顔をして、難しい顔で大平発  
言を聞いていた。しかし、大平発言が終ると、一様に安  
心したという表情となり、大平発言につき正面から認め  
るとは言わなかったが、わかっているから心配するなど  
いう表情で、うなずいた。)

大平大臣・田中総理： まあ「覚書事務所」のようなもの  
を考えている。

周総理： 日中双方の大使館が出来るまで、中国側として  
は、肖向前が中国政府を代表することとしたい。

田中総理： 結構である。

周総理： 日本側は誰が代表するのか？北京の日本側覚書  
事務所の代表は XXXXXXXXXX とかいう人だが？

田中総理： (中国課長に向い、また、大平大臣に向い、  
どうするか？と言われた。中国課長より、北京には外務

二極秘二  
秘密指定解除

省出身の [ ] と通産出身の [ ] がいると答えたが、田中情報公開室総理は兩名とも御存知なかった。)

日本政府の方は橋本中国課長にやらせる。従って、大使館ができるまで橋本-肖向前のラインで政府間の連絡をさせたい。

北京の日本側覚書事務所で誰を代表にするかは、後で決めて通報する。

周総理： 結構である。橋本-肖向前で政府間の連絡をしようことに確定しよう。

明日(29日)大平大臣が調印後、記者会見で、日台外交関係が切れることを声明されると聞いたが、大いに歓迎する。田中・大平両首脳信義に感謝する。中国も言ったことは必ず実行する。「言えば必ず信じ、行えば必ず果す」という諺が中国にある。

今後は日中間に新しい関係を樹立して行きたい。

田中総理： 我々は異常な決心を固めて訪中した。明日の大平大臣の記者会見で、台湾問題は明確にする。責任を果すためには、困難に打ち勝ち、実行していくという考えを堅持していきたい。日本の政治の責任者として、万全の配慮をし、事後処置についても最善の努力をしなけ



二極秘二

秘密指定解除  
情報公開室

ればならぬことを御理解願いたい。

明日の大平大臣の記者会見で、自民党内には党議違反の問題が起ってくる。しかし、私は総理であると同時に総裁であるから、結論をつけたいと考えている。

台湾との関係については、色々問題が起るが、大平大臣の述べた最小限の措置について御理解願いたい。

周総理： 私もその問題について話したいと思っていた。

田中総理： 台湾に対する日本側の現実的な措置については、事前に中国側にお知らせする。しかし、台湾は日中国交正常化後は戦争状態に戻ると言っているから、日本の総理としては困っている。

周総理： 今回の共同声明につき、中国側で、「戦争状態」の問題につき、表現を考えたのは、その点に配慮したからである。

米国に対し、我々も通報した。

大平大臣： 日台問題に関し、後で色々問題が起ったら、中国側に連絡する。

周総理： 蔣介石は重病であるが、何応欽、張群の二人は扱いやすい。この二人は風向きを見て、方向を変えて行く人だ。谷正綱も口先だけの人で、バックに力はない。

三極秘三  
秘密指定解除  
情報公開室

張群は四川、何応欽と谷正綱は貴州の人だ。しかし、蔣父子は彼等をあまり信用していない。何故なら、彼らに権力を奪われるのではないかと心配しているからだ。沈昌煥は極端に走る人ではない。主な問題は経國である。経國は小細工をやる人で、蔣介石の方がスケールは大きい。蔣介石は軍隊を誰にも渡さない。蔣介石が米国にも日本にも行かない理由は、ゴジンジェムや李承晩の二の舞をしないようにしているからだ。

経國の弱点は、黄甫軍官学校出身者との関係がよくないことだ。彭孟緝駐日大使も黄甫軍官学校出身である。彭は台湾には帰りたくないと思っている。経國は陳大慶を除いては、黄甫軍官学校出身者を排斥している。

嚴家淦が財政経済をあずかっている。台湾がうまくやっていくためには、二つの面で外国に頼らざるをえない。一つは軍事援助で、これは米国に頼らざるをえない。いまひとつは貿易の面であり、これは嚴家淦がやっているが、貿易なくしては台湾経済がやっていけないし、借款を受けねば、50万の軍隊を維持できない。また大陸から渡来した200万～300万の人々と台湾人との関係の問題もある。

二極秘二

秘密指定解除

情報公開室

台湾には、このような弱点がある。したがって、台湾にいる連中は小さな波乱は起すが、大きなことはできない。これを小細工と言う。

田中総理： 台湾問題につき、問題は日本国内、特に自民党内に問題がある。私は訪中前、佐藤前総理に決意を伝えた。彼は十分理解してくれた。台湾との関係については私と大平との政治力が試される問題である。しかし、日中の長い歴史のためには、その程度の困難は覚悟している。

周総理： 何か物事をやろうとすれば、必ず反対する者が現われる。

田中総理： 私が中国との国交正常化を決意した最大の理由は、中国（共産党）が世界を全部共産党にしようなどとは考えておらず、大中国統一の理想をもっている党であって、国際共産主義の理念の下に行動しているのではないと考えたからである。

周総理： まず自分の国のことを立派にやっていくことが大事で、他国のことは他国自身が自分でやるべきだ。今後は日中関係をできるだけ緊密なものにしたい。まず、飛行機の相互乗り入れからやりたい。

田中総理： 結構である。









Top Secret Indefinite

Prime Minister Tanaka [Kakuei]-Premier Zhou Enlai  
(1972 September 25th ~ 28th)

- Japan-China Diplomatic Normalization Negotiations Record -

Asia Bureau, China Section

[...]

In Attendance

Japan  
Prime Minister Tanaka  
Minister of Foreign Affairs Ohira [Masayoshi]  
Chief Cabinet Secretary Nikaido [Susumu]  
China Section Chief Hashimoto [Hiroshi]

China  
Premier Zhou Enlai  
Minister of Foreign Affairs Ji Pengfei  
Adviser, Ministry of Foreign Affairs Liao Chengzhi  
Vice Minister of Foreign Affairs Han Nianlong

(Note: The following record was typed in September 1988 from the original normalization negotiation records)

[...]

Fourth Summit Meeting (September 28th)

Premier Zhou: I want to discuss the Taiwan issue today.

What shall we do tomorrow?

(Premier Zhou raised the topic of the signing ceremony and the schedules for the 20th and the departure of the 30th. Details will be discussed between China Section Chief Hashimoto and the chief of protocol. )

I want to hear from Japan with regard to Taiwan. I became acquainted with Jiang Jieshi [Chiang Kai-shek] in 1924. I have collaborated with the Nationalist Party on two occasions. We fought them, also, on two occasions. I know the Nationalist Party and Government elites over the age of fifty very well. It is a secret meeting, so I want you to say anything that is on your mind.

FM Ohira: At last tomorrow is the day that Japan-Taiwan relations will be resolved. (Foreign Minister Ohira slowly and deliberately read the attached document. Premier Zhou and the Chinese delegation listened intently)

(Attachment)



## Japan-Taiwan Relations after Japan-China Diplomatic Normalization

1. As a result of diplomatic normalization between Japan and China, our country's diplomatic relationship with the government in actual control of Taiwan will be resolved. This is an obvious point, but we wanted to make it as clear as possible. At the same time, trade between Japan and Taiwan last year surpassed \$1.2 billion, and 180,000 Japanese and 50,000 Taiwanese citizens visited each other's countries. As this fact shows, it cannot be ignored that there is a substantial and varied exchange between Japan and Taiwan being conducted, and that Japanese citizens have empathy towards Taiwan.

2. The Japanese government will continue to not take the 'Two Chinas' stance, will not support any 'Taiwanese independence movements,' and does not harbor any designs on Taiwan. We hope for your trust in the Japanese government in this regard. At the same time, even after diplomatic normalization between Japan and China, the following various issues concerning Taiwan can be expected to remain:

(1) The government will need to expend effort in ensuring the life and assets of Japanese citizens in Taiwan (Current estimate: 3,900 Japanese with additional Japanese tourists)

(2) Because our nation is a democratic system, we cannot restrain travel, trade, and other citizen-level interactions between Japan and Taiwan as long as the activity does not harm Japan-China relations.

(3) Similar to (2), the government cannot but approve of economic exchanges conducted at the citizen-level.

(4) As long travel and trade between Japan and Taiwan continues, similar to (2) and (3), we cannot but approve of ships and airplanes coming and going.

3. Although our embassy and consulates in Taiwan will lose their official status after diplomatic normalization between Japan and China, in order to manage the various issues raised above, the offices must continue to function as necessary. Even after we fully withdraw our embassy and consulates, we believe that there will be the need to mutually establish civilian-level offices or contact points. We hope to gain China's understanding regarding this point.

4. Furthermore, after diplomatic relations between Japan and China are established, we will need to explain Japan-Taiwan relations to the Diet and press using the above rationales. We hope to gain your understanding regarding this point.

Premier Zhou: Is Japan envisioning the exchange of a memorandum office? Will Taiwan agree to the establishment of such an office? Would it not be better for Japan to take the leadership role and establish an office in Taiwan first?

(Note from China Section Chief Hashimoto: Premier Zhou and the Chinese delegation had concerned faces as if FM Ohira or PM Tanaka may bring up some difficult points on Taiwan. However, as soon as FM Ohira finished his statement, they all looked relieved. They did not explicitly say that they agreed, but they nodded as if in tacit approval.)

FM Ohira - PM Tanaka: Yes, we are thinking of something like a memorandum office.

Premier Zhou: Until an official Chinese embassy is established in Japan, we want for Xiao Xiangqian to represent the Chinese government.

PM Tanaka: That is fine.

Premier Zhou: Who will represent Japan? The person representing the memorandum office in Beijing is [redacted].

PM Tanaka: (He asked the China Section Chief and FM Ohira to ask what should be done? The China Section Chief told him that in China there is currently [redacted] from the Foreign Ministry and [redacted] from the MITI [Ministry of International Trade and Industry]. PM Tanaka was not familiar with them.)

China Section Chief Hashimoto will represent the Japanese Government. Therefore, until embassies are established, communication between our governments will be handled by Hashimoto and Xiao Xiangqian.

As to who will represent the Japanese memorandum office in Beijing, we will notify you at a later date.

Premier Zhou: That is fine. Then it is decided that communication between our governments will be handled by Hashimoto and Xiao Xiangqian.

We have heard that during the press conference following FM Ohira's signing, an announcement will be made regarding the severing of Japan-Taiwan diplomatic ties. We welcome this greatly. We are thankful for both Ministers Tanaka and Ohira's fidelity. China will also follow through with the things it has promised. There is a proverb in China: "Promises must be kept, and actions must be resolute."

I want to start establishing a new relationship between Japan and China.

PM Tanaka: We came to China with an especially strong conviction. With FM Ohira's press conference tomorrow, we will clarify the Taiwan issue. We will stick to the conviction that in order to follow through on our responsibilities, we must overcome difficulties and fully execute our tasks. We hope for your understanding that as the leader of Japan, I will take carry out my responsibilities and make great effort in all aspects of this task.

The Liberal Democratic Party is currently undergoing a party violation issue. While I am the Prime Minister, I am also the Party President. I hope to resolve this issue as quickly as possible.

There are many issues surrounding Taiwan, but we hope for your understanding regarding the minimal measures that FM Ohira mentioned that we will need to take with Taiwan.

Premier Zhou: I was hoping to discuss that topic as well.

PM Tanaka: We will notify you in advance regarding the specifics of the measures to be taken with Taiwan. However, Taiwan is saying that they will return to a state of war following the normalization of diplomatic relations between Japan and China. As the Prime Minister of Japan, I am very troubled.

Premier Zhou: Regarding the "state of war," we thought very deeply about the

wording of our joint statement.

We have also reported to the United States.

FM Ohira: We will notify you if more problems arise between Japan and Taiwan.

Premier Zhou: Although Jiang Jieshi is very ill, He Yingqin and Zhang Qun are very easy to work with. These two pay attention to the direction of the wind and act accordingly. Gu Zhenggang is also only full of words. He has no one powerful backing him.

Zhang Qun is from Sichuan. He Yingqin and Gu Zhenggang are from Guizhou. However, the Jiang father and son do not trust these men very much. They are worried that they will lose their power to these men. Shen Changhuan is not one to go to extremes. The greater problem is Jingguo. Jiang Jingguo [Chiang Ching-kuo] is more prone to trickery, while his father is drawn to bigger ideas. Jiang Jieshi will not hand over the army to anyone. The reason that Jiang Jieshi does not go to the United States or Japan is to avoid the fate of Ngo Dinh Diem and Rhee Syngman.

A weakness of Jingguo is that he does not have good relations with the graduates of the Whampoa Military Academy. The Ambassador in Japan, Peng Mengji, is also a graduate of the Academy. Peng does not want to return to Taiwan. Aside from Chen Daqing [Chen Ta-ching], Jingguo is rejecting Whampoa graduates.

Yen Jiagan [Yen Chia-kan] is handling economy and trade. In order for Taiwan to prosper they must rely on the outside world in two respects. One is military assistance, which it cannot but help ask the United States for. The other is trade, which Yen Jiagan is handling. Without trade the Taiwanese cannot survive, and without foreign debt they cannot finance their army of 500,000 men. There is also the issue of how the two to three million mainlanders and native Taiwanese will relate.

There are these weaknesses in Taiwan. The Taiwanese will cause little troubles, but they cannot afford to cause large disturbances. This is called trickery.

PM Tanaka: With regard to the Taiwan issue, the issue lies in Japanese domestic issues, especially within the Liberal Democratic Party. Before coming to China, I told former Prime Minister Sato [Eisaku] my conviction. He fully understood what I said. The Taiwan issue will test Ohira's and my own political resolve. However, for the sake of Japan-China history, we are ready to take on such struggles.

Premier Zhou: If you try to accomplish something, there are always those who will oppose you.

PM Tanaka: The final reason that convinced me to normalize relations with China was because I thought that China (the Communist Party) is not trying to make the entire world communist, that they are trying to unify greater China, and that they are not motivated by international communism.

Premier Zhou: It is first important to make your own country great, other countries should worry about their own issues. Henceforth, I want for Japan-China relations to be close as possible. I want to start with air traffic.

PM Tanaka: That is fine with me.